



メディア論

第13回 ドキュメンタリーとは何か
担当:野原仁



本日のテーマ

- ドキュメンタリーとはなにか
- すぐれたドキュメンタリーの条件
- すぐれたドキュメンタリー作品を見よう！

ドキュメンタリーとは？

- 現実社会のなかの事件・紀行・人物・自然などを描いた映像作品
- Document(記録)からできたことば
- **さまざまな事実を、表現者の視点・思想・感覚によって組み合わせることで表現したもの**
- 何らかのテーマ・表現者の意図が必ずある

事実・真実・本質

- 事実：実際にこの世の中にあることや起きたこと
- 真実：感覚的にとらえたあるものの本当のすがた
- 本質：論理的にとらえたあるものの本当のすがた
- 事実をどれだけ集めても真実・本質にはならない
- 事実をもとに人間が「本当である」と判断したものが本質
- ドキュメンタリーは、人間・自然・世界の本質を描こうとするもの

やらせと演出

- やらせ；事実をねつ造すること
- 演出；事実をもとに、それをわかりやすく表現すること
- ある特定の間人間がいつもやっていることを再現して「やってもらう」ことは、やらせ？
- ドキュメンタリーでは、再現シーンを断りなく使ってもいい？

ドキュメンタリー・ルポ・ノンフィクション

- ルポ(ルポルターージュ): 仏語reportageで、「報道記事」という意味
- 映像のドキュメンタリーに対応する、文章による現実世界の記録
- ノンフィクション: ルポとほぼ同じ意味で使われることが多い

ドキュメンタリー制作の過程

- ① 事実の認識（何が起きているのか）
- ② 問題意識（何が問題なのか）
- ③ 表現目的（問題をなぜ伝えるのか）
- ④ 表現内容（具体的に何を伝えるのか）
- ⑤ 取材・記録方法（どのように記録するのか）
- ⑥ 取材・記録
- ⑦ 編集

日常生活の記録としてのドキュメンタリー

- 子どもの運動会をお父さんがビデオで撮影したもの＝ドキュメンタリーのひとつ
- 「家族」という社会のなかでは重要なものだが、それ以外の人々にとっては重要ではない
- 対象とする視聴者の範囲によって、「すぐれたドキュメンタリー」の条件もちがう

グローバルな視点でみた、すぐれたドキュメンタリーの条件

- ① 多くの人にとって知ることが必要なことが描かれている
- ② 知ることが必要なことで、知られていないことが描かれている
- ③ 人類全体の幸福や平和を目的に描かれている
- ④ 表現者独自の思想・視点などがきちんと描かれている

本日の作品

- 『枯れ葉剤被害は終わらない』（2007年・長野放送制作）
- 30年間にわたって、ベトナム戦争時に散布された枯れ葉剤による被害の実態を取材・報道し続けている、報道カメラマン中村悟郎氏（元地域科学部教授）の活動を描いた作品